

開館時間 10時～17時（入館は16時30分まで）

三瀬夏之介

休館日 11月5日〔火〕、11日〔月〕

協力 イムラアートギャラリー、東北芸術工科大学

ゆるぐ絵画

主催 山形美術館、山形新聞、山形放送

潜行、氾濫、上昇、斜行、迂回

山形美術館

990-0046 山形市大手町1-63 電話 023-622-3990 FAX 023-622-3145

入館料 一般1000円、高大生600円、小中生400円

※20名以上団体は各々割引。土曜日と日曜日の午前中は半額。無料。障がい者とその付添者1名は手帳の提示で半額。キャンパスメンバー登録校の学生は学生証の提示で無料。

2014年11月1日〔金〕～7日〔日〕

後援 山形市

共催 山形県 公益財団法人山形県生涯学習文化財団

僕の絵は壊せるんです。いつでも再構成できて、始まりもないし終わりもない。三瀬夏之介『日本の絵』のための対談 三瀬夏之介×草薙奈津子「元平塚市美術館館長」より



01-A



01-B



01-C



01-D



01-E

01. コラボレーションゾーン 三瀬夏之介、山形美術館コレクション

01-A.三瀬夏之介《日本の絵 風に吹かれて―》2023年、作家蔵(写真:Ken KATO)／01-B.真下慶治《最上川浅春》1944年、山形美術館蔵／01-C.加藤松溪《首夏》1942年、山形美術館蔵／01-D.鈴木蘭涯《駿河北山所見(富士山真景図)》制作年不詳、山形美術館蔵／01-E.三瀬夏之介《日本の絵―執拗低音―》ポーラ美術館展示風景 2023年、作家蔵(写真:Ken KATO)



03-A

03. コレクティブゾーン

東北画は可能か?、ルネサンス絵画研究会、歩火、紅花道中プロジェクト、山形美術館コレクション

【関連イベント】●ギャラリーツアー① 11月1日[金] 13:00~14:30 / 定員:40名程度 / 登壇者:三瀬夏之介(本展展示作家)、岡部信幸(山形美術館学芸員) ●トークイベント① 11月2日[土] 13:00~14:30 / 定員:30名程度 / 登壇者:柳沢秀行(〔公財〕大原芸術財団 財団本部シニアアドバイザー)、三瀬夏之介(本展展示作家) ●ワークショップ 11月3日[日] 午前の部 11:00~、午後の部 13:30~(各回60分程度) / 定員:10名 / 講師:大山るり子(紅花染め指導者)、東脇佳菜(東北芸術工科大学大学院生) / 紅花染め指導者の大山るり子さんと、「紅花道中プロジェクト」を主催している東脇佳菜さんによるワークショップです。絞りを入れたり、割り箸で線を入れたりする色鮮やかな紅花染のオリジナルハンカチ作りを体験できます。 ●トークイベント② 11月9日[土] 13:00~14:30 / 定員:30名程度 / 登壇者:三瀬夏之介(本展展示作家)、岡部信幸(山形美術館学芸員) ●ギャラリーツアー② 11月16日[日] 13:00~14:30 / 定員:40名程度 / 登壇者:コレクティブゾーン展示作家、岡部信幸(山形美術館学芸員) ※ギャラリーツアー、トークイベントともに会場は2階第3展示室となります。時間までにお集まりください。 ※ギャラリーツアー、トークイベントともに申込不要です(要観覧券)。 ※ワークショップのお申し込みは、山形美術館までお電話ください(要観覧券、電話 023-622-3090)。

三瀬夏之介(一九七三年奈良生まれ)は、既存の日本画の枠にとらわれない、多様なモチーフや素材、技法による圧倒的な表現力が高く評価されている画家です。二〇〇九年に東北芸術工科大学に着任して以降、東北・山形の風土に地理学的・民俗学的なアプローチによって向き合い、岩絵具や和紙(雲肌麻紙)などの日本画の素材を用いながらも、従来の絵画の形式を超えた、空間を覆う緞帳のような巨大な作品を制作しています。本展では、三瀬夏之介の近作を中心に、作家が関わる地域プロジェクトなどを、山形美術館が収蔵するコレクションと共に紹介します。場所の歴史や記憶と不可分に描くことの根源を見据える圧倒的な表現から、山形の歴史性や新しい風景を考えるきっかけとします。

会場 山形美術館
会期 二〇二四年二月一日[金]~二七日[日]
開館時間 10時~17時 [入場は16時30分まで]
休館日 二月五日[火]、二日[月]
入館料 一般1,000円、高大生600円、小中生400円
※20名以上団体は各2割引。土曜日・日曜日の午前は中学生以下無料。
障がい者とその付添者1名は手帳の提示で半額。
キャンパスメンバーズ登録校の学生は学生証の提示で無料。



02-A



02-B



02-C



02-D



02-E



02-F



02-G



02-H



02-I

02. ラボラトリーゾーン

現代山形考 ―新しい郷土史をつくる― (修復は可能か? / 藩が湖伝説 / 山はうたう)、現代風神雷神考、山形美術館コレクション

02-A.「現代山形考―修復は可能か?―」展示風景 2018年(写真:三浦晴子) / 02-B.現代山形考コンプリートブック展示風景 2021年(ブックデザイン:アイハラケンジ、写真:三浦晴子) / 02-C.高橋源吉《臥龍橋》1902年、山形銀行蔵 / 02-D.高嶋祥光《シシ踊り》1965年頃、山形美術館蔵 / 02-E.菅野矢一《蔵王山鏡》制作年不詳、山形銀行蔵 / 02-F.菅野矢一《蔵王》1960年代、山形美術館蔵 / 02-G.高橋由一「山形風景観画集」(1884年)より《常盤橋》、山形美術館蔵 / 02-H.高嶋祥光《童心懐古》(芋煮会) 1954年、山形美術館蔵 / 02-I.前田春治《蔵王熊野岳とお釜》1975年、山形美術館蔵



03-B



03-C



03-D



03-E



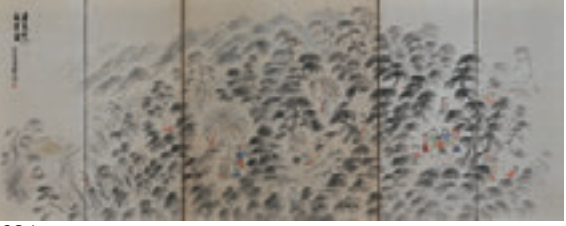
03-F



03-G



03-H



03-I

03-A.東北画は可能か?《方舟計画》2011年、作家蔵 / 03-B.近岡善次郎《雪の濱生館》1984年、山形美術館蔵 / 03-C.斎藤長三《雪(市井風景)》1940年、山形美術館蔵 / 03-D.東北画は可能か? 制作風景(写真:志鎌康平) / 03-E.高嶋祥光《みの里乃秋》1951年、山形銀行蔵 / 03-F.歩火.制作風景(写真:三浦晴子) / 03-G.近岡善次郎《赤ちゃん誕生》1955年、山形美術館蔵 / 03-H.小松均《最上川 井付近その1》1970年、山形美術館蔵 / 03-I.横良雄《春夏秋冬極楽園》1949年、山形美術館蔵

三				●文蔵館
		●山形メディアタワー		●山形市役所
	●税務署			
	●山形市役所	●アズセビル	●七日町御殿	
	●山形市役所	●山形グランドホテル		
	●山形市役所	●やまがたQ1		
	●山形市役所		●紅の蔵	
山形駅	●山交ビル			

●〒990-0046 山形県山形市大手町1-63 ●TEL: 023-622-3090
●FAX: 023-622-3145 ●web: yamagata-art-museum.or.jp
●交通案内: [徒歩] JR山形駅東口から徒歩15分 / [バス] ペニちゃんバス「中心市街地」行き霞城公園前下車徒歩4分 / [車] 山形自動車道山形蔵王I.C.から約15分 ※山形美術館北側に無料駐車場がございます。有料の提携駐車場はございません。



山形美術館